

院内で行われている研修会の様子をご紹介します。

今回の研修内容は、手術の際に使用する手袋の取扱いです。

鋭利な器具を多く取扱う医療の現場では、針刺し損傷（※1）などの感染のリスクが常にあり、そういったリスクを少しでも回避できるよう、様々な取組が行われています。

その一環として、今回は手術の際に使用する手袋の取扱いの研修が行われました。

研修では基本的な取扱いやダブルグローブ（2重に重ねて着用すること）を推奨する理由などが説明され、実際にピンホール（針刺し時などに発生する穴）を検知するインディケーターシステムの体験が行われました。

（※1 他人の血液に触れた医療器具によって外傷を受けること。
針によるささいな傷であっても感染のリスクがあります。）



ピンホール部分を検知し、青く変色している様子



インディケーターシステムの説明を行なう
感染管理担当者